



〈本年度の重点項目〉

- ① 学習活動の充実： 学力向上と思考力を高める授業を目指して
- ② 心の教育の充実： 道徳教育の充実と他者を思い遣る心の育み
- ③ 生き方の支援： 特別活動と総合的な学習の時間の充実

—学習指導—

- ① 甲府スタイルの定着とともに、思考力を高める効果的な指導を工夫することができたか。
- ② 主体的な学びに結びつくよう、家庭と連携した家庭学習の定着を図ることができたか

—特別活動—

- ① 北西中の良き伝統を継承する中で、さらなる生徒会活動の推進と活性化が図られたか（合唱 あいさつ 応援 朝読書）
- ② 「合唱タイム」の取組を通して学級・学年・全校の一体感や感動を創りあげることができたか

—各種教育—

- ① 各教科・道徳をはじめとする各種教育活動を通して「思い遣る心を育む」「いのちの教育」を実践することができたか
- ② 小中連携と地域との連携を密にして教育活動を推進することができたか

学校教育目標と教育課程について

1. 自己評価から

- ① 学校教育目標「心豊かで かしこく たくましい生徒の育成」の達成に向け、教育活動をすすめることができたか。
今年 できた (57%) , まあまあできた (43%) を合わせて→ 100%
- ② 県・市の重点目標, 今年度の本校の具体的重点項目が教育課程に生かされていたか
今年 生かされていた (52%), まあまあ生かされていた (43%) を合わせて→95%
昨年 生かされていた (22%), まあまあ生かされていた (57%) を合わせて→79%
- ③ 「思い遣る心」を持つ生徒の育成をふまえた教育課程が編成されていたか
今年 されていた (48%), まあまあされていた (43%) を合わせて→91%
- ④ 小中連携を通して地域の小学校との交流をすすめることができたか。
今年 できた (20%) , まあまあできた (55%) を合わせて→75%
昨年 できた (10%) , まあまあできた (38%) を合わせて→48%

【①②に関わって】

- ・知・徳・体の3つの教育理念が盛り込まれている本校の教育目標を常に意識し、県や市の指導重点が意識できるよう各分掌で工夫して発信しながら、教育活動が進められている。

【④に関わって】

- ・小中連携については、今まで行っていた「土曜授業参観」「部活動見学」「出前授業」等に加え、今年は、地区の小中が連携し、家庭学習推進の取り組み「NOTV・ゲーム・スマホDay」を実施した。企画・運営の面で小中連携に一般職員が直接かかわる機会は少ないので、まだ他の項目よりも低い評価ではあるが、チームとしてその一旦を担っているということを意識していきたい。

1. 学習活動の充実

～学校及び家庭での学習指導について～

1. 自己評価から

- ① 年間計画に基づき、教科指導を進めることができたか。
今年 できた (52%), まあまあできた (43%) を合わせて→ 95%
- ② ICTの活用を含めて、設備・教材・教具は有効に活用されていたか。
今年 されていた (14%), まあまあされていた (57%) を合わせて→ 71%
- ③ 甲府スタイルの授業改善事項をふまえ、授業実践を行うことができたか。
今年 できた (52%), まあまあできた (48%) を合わせて→100%
- ④ 家庭と連携した学習習慣づくりをすすめることができたか。
今年 できた (15%), まあまあできた (70%) を合わせて→ 85%

【全体に関わり】

- ・学習に対する教職員の評価項目を大幅に変更したため、昨年度との比較はできないが、今年度を皮切りに来年度との比較ができると考える。

【②に関わり】

- ・ICTを利用した学習活動は、今後社会に羽ばたく生徒たちにとって非常に重要な役割を持つことになると考える。今年は、一人一実践においても、ICTを利用した学習活動は多くの職員が取り組んでおり、学習効果も高い。しかし多くの教職員は、自己評価ではまだまだ不足していると感じているようだ。フロアに機器を2台ずつ置くなど、環境整備にも力を入れていきたい。

【③に関わり】

- ・「甲府スタイルを意識するだけで、授業の準備も変化する」という職員の声からもわかるように、大きな成果があったと思われる。
- ・4月に実施した「全国学力・学習状況調査」（3年）や「NRT標準学力検査」（1～3年）では良好な結果が出ている。さらに日々の授業をよりよくする努力を積み重ねていきたい。

【④に関わり】

- ・国や県は、ここ数年「家庭学習」に力を入れていることはご存知の通りである。新学習指導要領では、「関心・意欲・態度」ではなく「学びに向かう力・人間性等」という観点になる。見取りの方向性が異なる点や、授業から離れた時間も対象となるという捉え方ができる。来年に向けて、さらに家庭学習の定着を推進していくことが求められる。

2. 校内研のアンケートのまとめ

「学びの自立を目指して～生徒自身が見通しと振り返りを意識して取り組む授業の在り方～」を研究主題として1年間校内研究に取り組んだ。アンケートから、テーマがわかりやすく、見通しと振り返りを意識して授業作りに取り組むことができたという声が多かった。組織として、「甲府スタイルの授業」「家庭学習の手引き」等を手がかりにして、見通しと振り返りを意識した授業改善に取り組むことができたと評価している。その一方で、自分自身はまだ十分な授業改善を図ることができていない、と感じている先生も数多く見受けられた。自分自身の授業を見つめる目の厳しさと、「主体的・対話的な深い学び」を実現することの難しさの表れではないかと感じた。

今後の研究の課題としては、「考え・議論する道徳授業の実践」と「QUを活かした学級づくり」の2点が挙げられる。

今年度、研究の柱の一つに道徳授業の実践と評価を設定した。講師を招聘しての2回行った学習会や研修会の還流報告、学年毎に行った授業実践が、教科化に向けた有意義な学びの機会となり、来年度の方角性を見通すことができた、とする意見があった。その一方で、道徳授業の実践については学年での研究のみであったこと、自己評価のポイントは3.4と最も低くなっていることから、考え・議論する道徳授業をどのように実践していくのか、全体で研究を行っていく必要があると考えられる。

QUに関しては、今年度の平均ポイントは自分自身・組織ともに昨年度よりもポイントが低下している。文章回答を見てみると、「QUの分析結果を受け、生徒へ日々の生活の中で意識して声をかけること

ができた。学年の中で生徒理解への共有ができた。」といった内容の一方で、「QUは北西中で長く取り組んでいるもの。もう一度原点に戻り、学年だけでなく、全校で具体的な対応策や変化について学んでいく必要があるかもしれない。」といった指摘もあった。昨年度の研究紀要にも来年度の課題として挙げられていたが、改善することができなかった。QUそのものへの理解が深まり、学年全体で分析することの有効性を感じる一方で、いかにして日頃の実践へつなげていか、ということが課題である。学年で行った実践を全体で交流する場の設定などの解決策が考えられる。

以上のことを踏まえながら、平成33年度の学習指導要領全面実施に向けての準備を進めていきたい

3. 保護者のアンケートから

① お子さんは、学校生活を楽しく送っていると思いますか

今年 そう思う (62%), まあまあそう思う (29%) を合わせて → 91%
昨年 そう思う (62%), まあまあそう思う (31%) を合わせて → 94%

② お子さんは、授業の内容を良く理解していると思いますか

今年 そう思う (22%), まあまあそう思う (51%) を合わせて → 73%
昨年 そう思う (21%), まあまあそう思う (54%) を合わせて → 74%

③ 教師は、わかりやすい授業ができていると思いますか。

今年 そう思う (18%), まあまあそう思う (68%) を合わせて →85%

④ お子さんは家庭学習の習慣が身についていると思いますか。

今年 進んで学習する (16%) まあ学習している方である (52%) →68%
塾等のみである (18%) ほぼやらない (14%)
昨年 1時間未満 (34%) 1時間以上 (40%) 2時間以上 (19%)
3時間以上 (7%) 【昨年の調査は塾等も含んだ時間で示した】

⑤ お子さんは図書館の本を借りたり、図書館をよく利用したりしていると思いますか。

今年 そう思う (15%), まあまあそう思う (16%) を合わせて →31%
昨年 そう思う (13%), まあまあそう思う (16%) を合わせて →29%

【全体に関わり】

・ほとんど、昨年度とのポイントの差はない。

【③に関わり】

・今年度から新たに加えた項目。保護者から教職員への授業に対する評価とも捉えられる・現在は比較的良好であると言えるが、このポイントが上げていけるよう全員で努力していきたい。

【④に関わり】

・前述のとおり「主体的に学ぶ」「学びに向かう力」とあることから、昨年度までアンケートに入れていた塾等も含んだ時間数ではなく、実際に家庭学習をどのくらいの生徒が行っているかを把握するために項目内容を変更した。

【⑤に関わり】

・昨年度の最大の課題であった図書館の利用については、やや改善の傾向がみられた。来年度は、保護者に向けての発信の工夫と組織的な取組を行っていきたい。

2. 心の教育の充実

～ 生徒に対する学校の指導と家庭での子供の教育 ～

1. 自己評価から

- ① 生徒指導の組織・指導体制を整え、職員の共通理解を図って行うことができたか
今年 できた (38%), まあまあできた (48%) を合わせて→ 86%
- ② 不登校生徒の状況を共通理解し、状況に応じてS Cや外部機関と連携した対応を行うことができたか。
今年 できた (45%), まあまあできた (45%) を合わせて→ 90%
昨年 見られた (25%), まあまあみられた (60%) を合わせて→ 85%
- ③ いじめ問題への対応 (予防・早期発見・適切な対応等) を適切に行うことができたか。
今年 できた (40%), まあまあできた (45%) を合わせて→ 85%
昨年 見られた (35%), まあまあみられた (65%) を合わせて→ 100%
- ④ 気持ちのよいあいさつや返事など、生徒への適切な指導ができたか
今年 できている (27%), まあまあできている (50%) を合わせて→77%
昨年 できている (10%), まあまあできている (75%) を合わせて→85%

【②に関わり】

・「いじめ」については、生徒の小さな変化を職員が見逃さず対応していくよう心掛けている。今後の課題は、それぞれの学年の実態を踏まえながら、日常生活の中で、いじめ予防につながる取り組みを行っていくことだと考える。

【④に関わり】

・「あいさつ」については、職員と保護者・地域間に大きな意識の隔たりがあるように感じた。保護者の声には、「朝練の終わりの子供たちがわざわざ校門のところにあいさつに来てくれたり、その他の子供たちもしっかりあいさつをしてくれたりして感心しました」とある。地域でも複数の方から「よくあいさつをしてくれる」という声をいただいている。教師として自分の身近な子供たちに、どんな働きかけをしていくかが大切であると感じている。

2. 保護者のアンケートから <アンケートの項目の中の○は、昨年度と内容が近似しているとみなした項目>

- ① お子さんの仲の良い友達を知っていますか。
今年 よく知っている (27%), だいたい知っている (64%) を合わせて→91%
昨年 よく知っている (31%), だいたい知っている (61%) を合わせて→92%
- ② 学校の様子が学校・学年・学級だより, お子さんの話などからわかりますか。 ○
今年 よくわかる (20%), だいたいわかる (69%) を合わせて →89%
昨年 そう思う (37%) , ややそう思う (47%) を合わせて →84%
- ② お子さんは、学校からのお知らせ等を見せていますか。
今年 よく見せる (32%), だいたい見せる (42%) を合わせて →74%

- ④ 将来の進路や職業について家庭での話し合いができていますか。
 今年 そう思う (29%), ややそう思う (49%) を合わせて →78%
- ⑤ お子さんは毎日決まった時刻に寝て、決まった時間に起きるになど、きちんとした生活習慣が身についていると思いますか。
 今年 そう思う (32%), ややそう思う (45%) を合わせて →77%
 昨年 そう思う (31%), ややそう思う (47%) を合わせて →78%
- ⑥ スマホ、インターネット等を利用する際のルールなどについて、家庭で決めていますか。
 今年 決めてある (27%), だいたい決めてある (44%) を合わせて→71%
 あまり決めてない (25%), 全く決めてない (4%)

【全体に関わり】

- ・家庭での子どもの様子を把握する項目である。保護者は比較的小児と話をしている、小児は比較的小規則正しい生活を送っている。これらの数値が高いのは、家庭だけでなく地域の力があることだと考える。学校に協力していただいている地域の方々の力が、本校の教育の大きな支えとなっている。

【③④に関わり】

- ・昨年度、学校評価会議の中で「しつけをする」という項目を見た委員から、「今の保護者はしつけをするという観点で小児とは接していない」というご意見をいただいた。「育み」という視点に立ち、「便りを見せているか」「将来について家庭での話し合いができていますか」という項目に改訂した。

【⑥に関わり】

- ・ラインやツイッターなど小児たちを取り巻く SNS のトラブルについて、小児も保護者もより身近で感じるようになってきている。
- ・本校では、毎年1年生を対象に、SNS のトラブルについて山梨県警の少年対策官に依頼し講習をお願いしている。また、「学校だより」「PTA 広報誌」「1 学年アンケート」等でも SNS トラブル防止の注意喚起を行った。これらのトラブルは、「いじめ」や犯罪にもつながるという意識をもつことができるよう、生徒の講習を受ける機会を増やしていく必要があるかもしれない。

3. 生き方の支援

～本校の特別活動に対する意見から～

1. 自己評価から <アンケートの項目の中の○は、昨年度と内容が近似しているとみなした項目>

- ① 学級が「心の居場所」として生徒の支えになるように、学級活動が行われたか。
 今年 行われた (20%) , まあまあ行われた (75%) を合わせて→ 95%
- ② 生徒会活動 (行事や委員会活動等) の推進と活性化が図られたか。○
 今年 図られた (30%), まあ図られた (60%) を合わせて → 90%
 昨年 図られた (32%), まあ図られた (55%) を合わせて → 87%

- ③ 伝統の合唱活動を「合唱タイム」の取組を中心に創りあげることができたか。○
 今年 できた (25%), まあまあできた (50%) を合わせて → 75%
 昨年 できた (14%), まあまあできた (67%) を合わせて → 81%

【②に関わり】

- ・生徒会活動は、各学年の生徒会担当がお互い助け合いながら、行事や委員会活動によく取り組んでいたと考える。

【③に関わり】

- ・「合唱が北西中の伝統である」ことは、保護者も生徒も卒業生も意識しているところである。今後もこの伝統を引き継いでいくための意識を高いところに持つ必要がある。来年度は、この項目の職員の自己評価が上がる方策を練っていく必要がある。

2. 保護者のアンケートから <アンケートの項目の中の○は、昨年度と内容が近似しているとみなした項目>

- ① 学年・学校開放（学園祭，講演会，親子道徳等）は，お子さんの様子を知る良い機会となっていると思いますか。○

今年 そう思う (59%), ややそう思う (35%) を合わせて→94%

昨年 そう思う (51%), ややそう思う (43%) を合わせて→94%

- ② 合唱活動を通して，仲間とのふれあいや，学級・学年・全校の一体感が生まれていると思いますか。

今年 そう思う (39%), ややそう思う (51%) を合わせて→90%

昨年 そう思う (44%), ややそう思う (47%) を合わせて→91%

【①に関わり】

- ・社会に開かれた学校にしていくために、現在、土曜参観が2回ある。PTA活動が定着し、4回の授業参観等の参観率が67~72%と高い状況は、本校の誇れることの一つであるととらえている。

【②に関わり】

- ・上に記述した内容と同じ。

☆保護者アンケート「北西中のよいところ、誇れるところ」の自由記述では、次のような傾向が見られた。

- ① 合唱の取り組みと、合唱の質の高さ 全校 26名
 (1年：12名, 2年：6名, 3年：8名)
- ② 挨拶の取り組みと、挨拶の習慣化 全校 24名
 (1年：7名, 2年：7名, 3年：10名)
- ③ 子どもたちの仲の良さ、職員との親密さ等学校の良い雰囲気 全校34名
 (1年：9名, 2年：17名, 3年：8名)
- ④ 教師の姿勢や親身な指導 全校28名
 (1年：14名, 2年：5名, 3年：9名)
- ⑤ その他、環境の良さなど 全校 7名
 (1年：3名, 2年：3名, 3年：1名)

(保護者からの声)

●北西中の誇れるところ。良いところに対して

○ 時々子供を学校へ送るのですが、誰も下を向いて歩いて、元気のなさそうな子を見かけることがありません。どのお子さんも楽しそうに話し、元気に歩いている姿に学校での充実さが窺えます。担任の先生の細やかな気配りや、他学年の部活動の先生にも娘の話を聞いたことがあり、多くの先生方に見守っていただけることに感謝しています。安心して子供を通わせられています。今後ご指導お願いいたします。(1年)

●多忙化の改善の取組で、週1日、生徒下校後なるべく早く退勤するようにしたことについて

○ 多種多様化する子供たちを取り巻く環境の変化は、子供たちも変えてしまう。そんな子供たちと日々接する先生方にも精神的にも負担がかかってしまうと思うので、良いアイデアだと思います。先生方も先生である前に一人の人間です。自分の時間を大切にすることは必要だと思うので、先生方のやりやすいように変えていくことに賛成です。(2年)

【北西中の誇れるところの自由記述に関わり】

- ・昨年度は合唱活動への評価が最も高かったが、今年度は、いろいろな意見がほぼ横一線となり、中でも「子どもたちの仲の良さ、職員との親密さ等、学校の良い雰囲気」を挙げる保護者が多くなった。
- ・学校に対する意見を前半に書いた保護者が、後半には「でも北西中の合唱はいつになっても素晴らしい。校歌の4部合唱は全国の皆さんに知ってもらいたい」という声を書いている。始業式・終業式などの際、生徒会を中心に、全校で意識して校歌に取り組んできた成果とも受け取れる。今後も生徒・職員が誇りを持って、合唱活動に取り組んでいく必要がある。
- ・保護者からの声から各学年の異なる特色を感じた。この特色を生かしていくためには、チームとなり多くの保護者から温かい励ましの言葉や高い評価を受けていると感じた。裏返せば、高い期待を寄せられているということであるととらえている。

4. まとめ

○ この自己評価や保護者アンケートを基に、2月には学校関係者評価会議を開催し、学校評議員とPTA正副会長の皆様から貴重なご意見をいただいた。

来年度は、この学校評価や学校評価会議の結果を元に、次の3つの点についてさらに工夫し、よりよい教育活動につなげていきたいと考えている。

1. 「合唱活動」
2. 「挨拶の取組」
3. 「小中学校の連携」